

今世紀の新しいゲルマニウム粒貼付(DKS療法)による 筋力骨格調整機構の補正

吉富賢一⁽¹⁾・無敵剛介⁽²⁾

内閣府認証NPO法人 日本キネシオン協会 理事長⁽¹⁾
久留米大学 名誉教授 ORT生命科学研究所 所長⁽²⁾

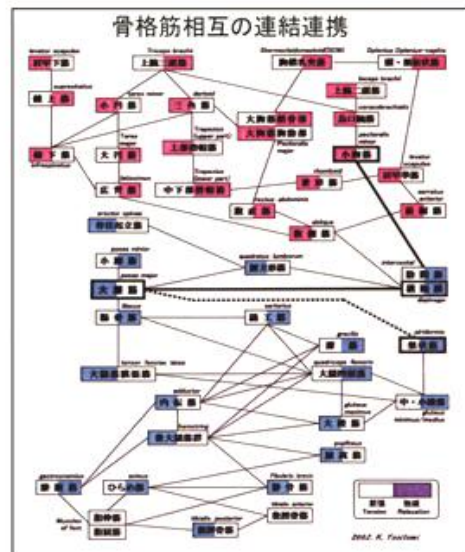
【はじめに】

DKS(ダイナミック・キネシオ・シナジー)とは、超高純度(99.99999%以上)半導体・赤外線光学レンズ仕様のゲルマニウム粒貼付によって、経絡を基盤とした筋力骨格機構を継続的に調整・補強する。それにより自律神経機能を改善し、自然治癒力を高める新しい療法である。①疲労衰弱した筋肉反射点 ②虚(衰弱)又は実(興奮)した経絡・経穴 ③サプリメント等の適合をアームテストにより判断する。

今回はその理論大系の原点を成す筋力バランスについて述べることにする。図は各種筋群間の調整関係(緊張と弛緩)を示し、太線・点線は鮮明に現れる筋肉の拮抗関係である。

【骨格筋相互の連結連繋】

身体全体の様々な筋肉が緊張・弛緩して筋力均衡を保ち、直立姿勢や特定目的の運動を行なっている。前図は主要な筋の協調と拮抗による連繋のメカニズムを、多くの臨床経験から図示したものである。(先天的・器質的異常、免疫・内分泌・自律神経機能の脆弱や片寄った運動などの影響を考慮しない状態での健全な筋力バランスによる連繋図)



【呼吸機能に影響を及ぼす大腰筋の重要性】

身体の筋肉は相互に連繋しており、身体全体のバランスをとっている。その中で「大腰筋→横隔膜(肋間筋)→小胸筋」は、緊張と弛緩の関係が鮮明に現われる筋肉連繋である。

一方側の腰筋が弱化すると

- ①同側の横隔膜が緊張して肋間筋も緊張する。その為、呼吸域が狭くなり、深呼吸が出来にくくなる。
 - ②肋骨に付着している小胸筋に弛緩が起こる。
- その時、反対側では
- ③腰筋が緊張状態になり、横隔膜は弛緩し小胸筋が緊張する。
 - ④緊張した小胸筋は、圧すると過緊張状態の痛みが確認できる。

【大腰筋筋力の肩関節への影響】

大腰筋の筋力バランスの崩れは連繋している肩甲関節周囲筋にまで影響を及ぼす。

- ①小胸筋は肩甲骨に付着しているので、過緊張側の肩甲骨は前方、反対側は後方にひかれる。
- ②肩甲関節周囲筋の筋力バランスが崩れ、肩関節に痛みが起こり、慢性化すると肩関節周囲炎の起因となる。

遷延化している場合は、大腰筋のバランスを崩した腰痛症の人が多い。弱化した大腰筋を強化し、左右バランスを整えることで肩関節の痛みが軽減する。

【大腰筋筋力の坐骨神経への影響】

大腰筋と梨状筋はその筋力が拮抗している。

- ①大腰筋の筋力が弱ると、同側の梨状筋は過緊張を引き起こす。
- ②梨状筋の下を走行している坐骨神経や血管を圧迫し、坐骨神経痛を発症する。

腰 ⇒ 「月」は身体
「要」はカナメ=重要ポイント

上層部では

横隔膜・小胸筋に連繋し、肩関節にまで影響している。

下層部では

梨状筋をはじめ、腰部・股関節部にまで影響している。

大腰筋の筋肉反射点
膝の約2.5〜3.0cm斜め上



大腰筋の連繋

